

令和5年度 鹿角市立八幡平小学校 学校評価書



<参考表示>

市の施策の基本方向	評価指標（学校の実践課題）	自己評価 中間	外部評価 中間	自己評価 年度末	外部評価 年度末	市の施策の柱
基本方向1 自己実現のために必要な確かな学力の定着を図ります。	①基礎・基本の確かな定着に向けた基本的な学習習慣の形成 ②諸検査の結果分析とその活用による授業改善	3	3	3	4	①なぜ学ぶのかを明確にした主体的・対話的で深い学びの実現 ②進ましい学習集団の育成による児童生徒の学力向上対策 ③読書活動の推進と読解力の育成
基本方向2 自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材を育てます。	①ふるさとへのよさを発見し、ふるさとへの愛着を深めるための活動の充実 ②自分の将来を見つめることを目指した体験活動や小中連携の充実	3	3	3	3	①社会的・職業的自立を目指す教育活動の推進 ②ふるさとへの理解を深める体験的な活動の推進 ③鹿角市の未来を支え盛り上げる人材の育成
基本方向3 情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材を育てます。	①学び合いの充実を図り、自分の考えを進んで表現する態度の育成 ②ICTの効果的な活用による情報活用能力の育成	3	3	3	3	①ICTを活用した情報活用能力と情報モラルの育成 ②グローバル化に対応する能力の育成 ③他地域との交流によるコミュニケーション能力と発信力の育成
基本方向4 豊かな心を育みます。	①明るいあいさつや場に応じた言葉遣い等、向上心、思いやりなど豊かな心の醸成 ②互いのよさを認め合い、自己有用感と主体性を育む集団づくりの推進	3	3	3	4	①自己有用感と主体性を育む学習集団の育成 ②規範意識や思いやりなどを育成する道徳教育の充実 ③共生社会の形成に向けた人権教育の推進
基本方向5 健やかな体を育みます。	①健康教育の充実による基本的な生活習慣の形成 ②運動習慣の形成と体力向上のための継続的な取組	3	3	3	4	①規則正しい生活習慣の確立 ②食育の推進 ③体育授業及び運動部活動の充実と体力の向上
基本方向6 子ども一人一人に応じた、きめ細かな教育を推進します。	①一人一人の教育的ニーズの把握と校内支援体制の整備 ②一人一人の居場所をつくり、よさを伸長する機会や役割の充実	3	4	4	4	①特別支援教育の充実 ②就学前相談の充実と小・中学校との円滑な接続 ③不登校児童生徒の居場所づくりと学校復帰に向けた支援の充実
基本方向7 子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場をつくりまします。	①安全教育の推進と危機対応能力の向上 ②校舎内外の安全確保と施設・設備の適切な整備	3	4	4	4	①安全・安心・良質な学校環境づくりの推進 ②通学の安全対策 ③学校の危機管理対策
基本方向8 教職員のモチベーションと資質の向上を図ります。	①指導力を高め、学校課題に沿った校内外での研修の充実 ②研究主題の具現化に向けた授業力向上のための研修の充実	3	3	4	4	①教職員研修の充実 ②人事評価制度とキャリアアップ研修の充実 ③教職員の働き方改革の推進
基本方向9 地域とともに特色ある学校づくりの推進に努めます。	①学校運営協議会による学校運営と家庭・地域への積極的な情報発信 ②地域の教育力の活用と幼保・中との連携の推進	3	4	3	5	①学校運営協議会を核としたコミュニティ・スクールの推進 ②地域学校協働推進事業による学校の活性化 ③学校の創意工夫による特色ある学校経営の推進

5	きわめて良好
4	良好
3	おおむね良好
2	やや不十分
1	努力を要する

5	実現状況は極めてよい	達成率90%以上
4	実施状況は良好である	達成率80～90%
3	実施状況はおおむね良好である	達成率60～79%
2	実施状況はやや不十分である	達成率50～59%
1	実現状況は不十分で努力を要する。	達成率49%以下

基本方向2「自分の未来を自分で切り開き、ふるさとを支える気概をもった人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	ふるさとに愛着をもち、地域行事に参加している児童が多い。学校教育目標の今年度の重点である「進んで」や「たくましく」については、まだ十分とはいえない。	中間	3	中間	3	ふるさと学習を大切にしている。継続してほしい。児童が地域行事に参加していることが地域の励みとなっている。このことを児童にも伝え、進んで参加する気持ちを養いたい。
年度末	地域での学習や、外部講師を招いての学習に意欲的に取り組んだ。夢や希望に向かって努力している児童の割合が増えた。	年度末	3	年度末	3	ふるさと教育は地域の良さを学ぶ多くの活動を行っていると思う。すぐに成果は見られなくても、地域の良さを感じ取り、将来につながる体験活動を続けてほしい。夢をもっている子どもが多く、良い傾向と思う。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・ふるさとに愛着を感じている児童の割合が高かった。この気持ちを、2学期以降の学習活動でさらに深めたり高めたりしていきたい。 ・将来の夢や目標をもっている児童の割合が半数強である。この割合を増やせるように、現在学習していることが将来のキャリア形成につながっていることを教師も児童も意識したり、自己有用感を高める工夫をしたりしながら授業を進めていきたい。					
	【年度末評価】 ・ふるさとに愛着を感じている児童の割合が9割以上であった。中間評価より若干減少したが、ふるさとへの愛着を年間通して深めることができた。 ・夢や目標に向かって努力していると感じている児童と保護者の割合が増加した。活動のねらいを明確にしたり、活動後の評価を適切に行うなど、工夫して指導したことが効果的であったと考えられる。また、全教育活動を通して、主体的に活動する場面を設定したことも要因であると思われる。これらの活動を今後も継続していきたい。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
①ふるさとのよさを発見し、ふるさとへの愛着を深めるための活動の充実		・地域素材・人材の活用、地域探検、社会科見学、校外学習 ・歴史や伝統・先覚者の偉業に対する理解、ふるさとのよさの発信				
②自分の将来を見つめることを目指した体験活動や小中連携の充実		・体験活動を生かしたキャリア教育の充実 ・職場体験学習の充実、「夢先生」の実施 ・八中与連携した活動				
< 資料 >						
1 児童の自己評価（7月→12月）		グラフ左から「大好き」・「まあ好き」・「あまり好きではない」・「好きではない」				
①八幡平地区が好き		7月 44.2% 12月 53.1%				
達成率：82%→78% 肯定率96%→94%						
②将来の夢や目標をもち、それに向かって努力している		左から「している」・「だいたいしている」・「あまりしていない」・「していない」				
7月 35.4%		12月 43.4%				
達成率70%→69% 肯定率75%→79%						
2 保護者の評価（7月→12月）						
①八幡平のことを知っていて、八幡平が好きである		7月 48.6% 12月 49.0%				
達成率71%→73% 肯定率83%→83%						
②将来の夢や目標をもち、それに向かって努力している		7月 49.5% 12月 46.9%				
達成率56%→60% 肯定率62%→69%						
3 職員の評価（7月→12月）						
①郷土愛		達成率64%→67% 肯定率83%→92%				
②キャリア諸能力		達成率58%→64% 肯定率75%→83%				
						
松館しぼり大根の種植え		永田枝豆栽培・販売				

基本方向3「情報活用能力とコミュニケーション能力をもった、自分らしく輝く人材の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	児童は情報機器の操作に積極的に取り組んでいる様子が見られる。しかし、交流や学び合いとなると自信をもって参加できない児童が増えている。	中間	3	中間	3	自分の考えを広めたり、発表するのは八幡平の子どもたちに足りない部分と思う。主体性とコミュニケーション能力を一層高めたい。ICTに関しては、家庭での活用を促進してほしい。
年度末	ICTに関しては良好な状況であるが、コミュニケーション能力については学年が上がるほど、自信をもって表現できない傾向が見られる。	年度末	3	年度末	3	コミュニケーション能力は成長と共に変化するので、方法や場の設定等を工夫し続けてほしい。ICTについてはよく活用されているが、更に先進地域の取組を取り入れる等して進めてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・「八まんたいっ子学び合いスキル」が活用され、ほとんどの児童が主体的に話し合いに参加している様子がうかがえる。 ・ICTを様々な場面で活用することができている。情報モラルの教育については新たな取り組みが必要である。					
	【年度末評価】 ・3学期はじめの「学習の約束強調週間」で「八まんたいっ子学び合いスキル」を再確認し全校で取り組んだ。2月には各学級の目標を決めて取り組む。児童の主体的な活動として取り組むことで手応えを感じさせ、児童の自覚を促し、自信を付けさせたい。 ・2学期に高学年でタブレット端末の持ち帰りをを行った。家庭での使用と課題提出を問題なく行うことができ、基礎的なスキルは概ね身に付けている。今後さらにICTを活用した学習の可能性を広げていきたい。					

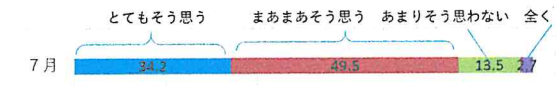
評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①学び合いの充実を図り、自分の考えを進んで表現する態度の育成	・学び合いの場の工夫、発表する機会の保障 ・豊かな表現活動の推進（朝学習での短作文、今月の歌、学習発表会）
②ICTの効果的な活用による情報活用能力の育成	・電子黒板やタブレット端末の効果的な活用 ・プログラミング教育の推進 ・情報モラル教育の推進

<資料>

◇コミュニケーション能力

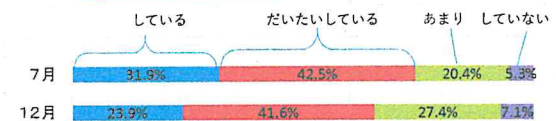
○学習アンケートの結果（7月→12月）

- ・ふだんの学習では友達と話し合って自分の考えを広げたり深めたりできていると思う。
：肯定率83.8%→79.5%



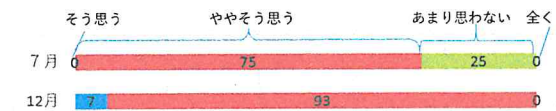
○学校生活の振り返り（児童アンケート）より

- ・あなたは自分の考えを進んで発表している。
：達成率67%→65%



○職員による学校評価

- ・子どもたちは進んで学び合いに参加したり、自分の考えを表現しようとしていたりしている。



◇情報活用能力

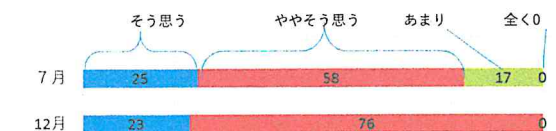
○学校生活の振り返り（児童アンケート）より（7月→12月）

- ・あなたはタブレットを使った学習に進んで取り組んでいますか。
：達成率85%→92%






○職員による学校評価（7月→12月）

- ・子どもたちはタブレット端末の活用に進んで取り組み、情報活用能力の基礎を身に付けている。：達成率69%→74%



基本方向4 「豊かな心の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	素直で優しい子どもたちが多く、明るく気持ちのよいあいさつをすることや、場に応じた言葉遣いをするなどについては、個人差もあり、児童の評価と保護者・職員の評価には大きなずれがある。	中間	3	中間	3	保護者とのズレが気になる。家庭教育との連携をはかり、働きかけ方の工夫や保護者が実態を知る機会をつくる等の手立てがあると良いのではないだろうか。また、地域の大人から、子どもたちへ声かけをするなど、寄り添う努力を啓発したい。
年度末	各学級での「なかよし大作戦」の取組、全校での異学年交流、学習発表会等を通して、子どもたち同士の関わり方がよりよい方向へ変わってきた。あいさつや返事については主体性や実践力がまだ弱い。	年度末	3	年度末	4	子ども同士の交流はそのまま継続してほしい。子どもたちはよく挨拶ができていていると感じている。慣れていない人への挨拶は難しいことなので、地域の大人が率先して子どもたちと関わり、挨拶する環境作りも大切だと思う。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・年度当初、運営委員会からあいさつ3ポイントを提示している。2学期はじめにあいさつ強調期間を設け、各学級ごとにあいさつのポイントを決めて取り組む予定にしている。 ・校内研修としてhyper-QUの分析結果を共有し、話し合いをもとにそれぞれの学級作りに生かすための方向性を確かめることができた。					
	【年度末評価】 ・2学期始めに学年ごとに「あいさつリーダー」を担当し、全校児童とあいさつを交わす活動を行ったところ、張り切って活動していた。コミュニケーションや自己表現の一つとして、今後もあいさつを交わす良さを広めていきたい。 ・hyper-QU研修の2回目を実施し、1回目の研修で確かめた取組の経過と2回目の調査結果から、学級の実態がよりよい方向へ変化していることを確認できた。来年度に向けての取組についても決め、実践を継続することになっている。					
評価指標（学校の実践課題）		具体的な取組内容				
① 明るいあいさつや場に応じた言葉遣い等、向上心、思いやりなど豊かな心の醸成 ② 互いのよさを認め合い、自己有用感と主体性を育む集団づくりの推進		・あいさつ運動の実践、全校集会等での呼びかけ ・礼儀・態度面の指導 ・月の生活目標の取組 ・昼読書、読書強調期間、市図書館等と連携した学び ・hyper-QUの分析を生かした学級づくり ・道徳教育の充実、いじめ防止強調月間の取組 ・学級活動・児童会活動等の充実、全校縦割り活動・異学年交流の充実				
<資料>						
学校評価の結果：肯定率（7月→12月） ① 望ましい生活習慣の定着（明るい挨拶、場に応じた言葉遣い） 児童：92%→82% 保護者：65%→72% 職員：92%→77% ・あいさつは、一斉に行う決まった場では元気にできるが、「いつでも どこでも だれにでも」には至ってなく、日常のこととして身に付いていない。 ② 思いやりの心、集団作り（友達との協力、認め合い） 児童：99%→96% 保護者：88%→86% 職員：91%→100% ・7月より若干下がっているが、全体として高い数値を示している。同学年、異学年などさまざまな人間関係の中で、失敗が糧となり豊かな関係を築いていけるということを子どもたちと共有し、積極的に機会を設けていきたい。						
						
いじめ防止週間 なかよし集会		「あいさつリーダー」の取組		異学年交流授業（1年生と6年生）		

基本方向5 「健やかな体の育成」

児童生徒の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	児童、保護者は昨年度に比べ、基本的な生活習慣が身に付いてきていると感じているようだが、学校の指導はまだ改善の余地がある。	中間	3	中間	3	家庭生活に働きかける難しさはあると思うが、継続して取り組んでほしい。睡眠の大切さの理解も必要と思う。また、他地区と比較した本校の体力面の情報があると良い。
年度末	関係機関と連携した指導により学習効果が高まり、自己の生活を見直す機会となった。体育的な取組に積極的に参加することができる。	年度末	3	年度末	4	「〇〇チャレンジ」や外部機関と連携した保健指導は子どもたちの意識を高める効果が高いと思われる。「望ましい生活習慣」に向けて継続して続けてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・「元気もりもり週間」や「ノーマディアの日」では幼保・中と連携し、保護者の協力を得ながら同時期にチェックカードを活用した。今年度は歯科衛生士による歯みがき指導を取り入れ、生活習慣と関連付けながら、歯・口の健康づくりにも取り組むことができたので、継続した指導を行ってきたい。 ・体育的行事や業間運動を通じて運動に取り組んだ。今年度から行間運動の内容を昨年度のスポーツテストの結果に基づいた運動に変更し児童は積極的に取り組むことができた。家庭でも運動する機会が増えていようマラソン記録会やスキー教室に関連付けて働きかけていきたい。					
	【年度末評価】 ・マラソン記録会に向けたマラソンチャレンジは、一人一人が目標をもって運動に取り組む機会となった。大縄チャレンジやスポーツチャレンジの取組によって、冬季期間でも運動する機会が減らないようにしていきたい。 ・月別保健目標に合わせて、歯みがき、食、手洗い衛生、薬物乱用防止等、外部機関と連携した保健指導を行った結果、児童の行動変容が見られ意識を高める機会となった。望ましい変容を自覚できるよう、家庭を巻き込んだ生活習慣の積極的な見直しと実践力の向上に向けて、取組を工夫していきたい。学校保健委員会では健康課題について検討し、参加した保護者と意見交換をしながら具体的な対策を考えることができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①健康教育の充実による基本的な生活習慣の形成	・「元気もりもり週間」、「ノーマディアの日」、歯磨き指導、清潔検査、姿勢指導の実施 ・病気やけがの予防に関する指導、疾病治療の奨励 ・学校保健委員会の充実
②運動習慣の形成と体力向上のための継続的な取組	・体育的行事や新体力テストを生かした運動・スポーツの実践 ・業間運動（「スポーツチャレンジ」）の充実

<資料>

1 児童の自己評価 【平均達成率 79.5%→77.5%】	グラフ左から「している まままあしている あまりしていない 全くしていない」
①「早ね 早おき 朝ごはん」や歯みがきをしている。 ：77%→74%	7月 46.0% 41.6% 10.6% 1.8% 12月 36.3% 51.3% 11.5% 0.9%
②体力づくりのために進んで運動している。 ：82%→81%	7月 59.3% 30.1% 8.0% 1.7% 12月 61.1% 25.7% 9.7% 3.5%
2 保護者の評価 【平均達成率 69.5%→68%】	
①健康のための望ましい習慣（早ね早おき朝ごはん・歯みがき、目の健康、むし歯予防）が身に付けている。 ：63%→63%	7月 24.3% 43.0% 29.0% 3.7% 12月 20.8% 47.9% 30.2% 1.0%
②体力向上のために進んで運動に取り組んでいる（体育の時間、休み時間の運動、スポ少活動等）。 ：76%→73%	7月 53.3% 24.3% 18.7% 3.7% 12月 43.8% 34.4% 18.8% 3.1%
3 教職員の自己評価 【平均達成率 63.5%→66%】	
①健康な生活習慣や望ましい食習慣を身に付けている。 58%→53%	
②体力増進のために進んで運動に取り組んでいる。 69%→79%	



マラソン記録会



手洗い教室



食育講座



学校歯科保健優良校表彰「優秀賞」

基本方向6 「子ども一人一人のニーズに応じた、きめ細かな教育の推進」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	特別支援学級5名在籍、特別支援教育支援員対象の児童が各学年に合計13名在籍している。	中間	3	中間	4	1人1人の実態把握と職員間の共有、指導・支援を引き続きお願いしたい。特別支援については、児童にも理解を促したい。子どもたちにも学校が過ごしやすい場であるよう、引き続き工夫してほしい。
年度末	一人一人のニーズに応じ、教育的な配慮を行いながら、適切な支援をするよう職員間で共通理解を図ってきた。	年度末	4	年度末	4	アンケートや面談等良く取り組まれている。今後も一人一人の状況を把握し、指導や支援を充実させてほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・毎月行っている心のアンケートの結果から気になる児童についてはすぐに面談を行い、職員間での共有を図ってきた。今年度から職員打合せ後に児童を語る会を設けることにより、短期間で児童の様子を共有する工夫してきた。10月には全児童と面談を行い、一人一人の実態把握に努める予定である。 ・4月、7月、予定どおり校内特別支援運営委員会を開催した。職員会議では児童理解の機会を設け、教職員間で児童に関する共通理解を図ってきた。そのため、共通認識の下、指導に生かすことができた。今後、2月頃第3回校内特別支援運営委員会の開催を予定している他、適宜教職員会で共通理解の場を設けていきたい。					
	【年度末評価】 ・10月に全学年全児童と学級担任との個別面談を実施したことにより、児童の実態把握が充実した。また、週に1度の児童を語る会を継続することにより、全職員が児童の様子や変化を適時細かく把握し共有することができ、全員による日常の指導に生かすことができた。 ・校内特別支援運営委員会は、予定通り年間3回実施し、共通理解を図ってきた。学級担任にだけ任せるのではなく、全職員で子どもを支援する意識をもって取り組んできた。 ・外部機関や中学校、特別支援学校等多くの関係機関と連携し、研修会やケース会議を適宜開催して児童理解に努め、個別の対応を図ってきた。家庭環境も含めた課題解決がますます重要となっているので、引き続きチームでの対応を心がけたい。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①一人一人の教育的ニーズの把握と校内支援体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画・支援計画の活用、時間割の工夫、 ・全校支援体制、特別支援教育支援員・特別支援教育コーディネーターの活用
②一人一人の居場所をつくり、よさを伸長する機会や役割の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のアンケート」の実施、互いのよさを見付け、認め合う場の設定 ・個人面談・児童を語る会・ケース会議の設定 ・関係機関との連携・情報共有

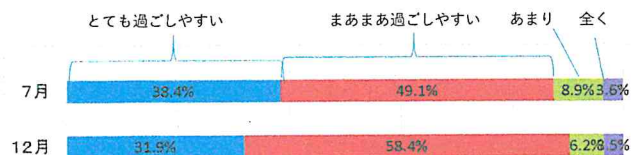
<資料>

学校評価の結果（7月→12月）

- 1 ①一人一人の居場所作り（心のアンケート、認め合う場） 職員：100%→100%
- ・児童の実態把握や指導・支援を迅速に行い、子どもの声に丁寧に耳を傾けてきた。
 - ・情報共有を素早く行い、チームとして課題解決に努める仕組みを構築し、運用が図られている。

学校生活の振り返り（児童アンケート7月→12月）

学校はあなたにとって過ごしやすい場所ですか？
 : 達成率74%→73% 肯定率88%→90%



「自己決定の場」を設定



学習支援員と協力して丁寧に粘り強く



生徒指導研修会での全体協議

基本方向7「子どもの成長を支える魅力的で安全・安心・良質な学びの場づくり」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	安全意識について児童や保護者は意識付けが図られていると思っている一方、職員は不十分だと感じている。なお、校舎・校地内での老朽化に伴う問題点が散見される。	中間	3	中間	4	安全・安心を十分に考え、児童の安全意識が高まっている。指導内容が保護者に伝わっていることが、アンケートから見取ることができる。
年度末	児童や教職員の実態に合わせて安全指導を実施してきた。だいたい意識付けが図られてきた。校舎内外において老朽化が進んでいるが、職員間で連携を取り適切に整備されている。	年度末	4	年度末	4	避難訓練の中で、子どもたちが自分の役割を考えながら学びを深めている様子が見られる。今後とも地域の現状をふまえた安全教育を続けてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・今年度に入り、地震・火災対応、不審者対応の避難訓練を関係諸機関との連携を図りながら実施した。今後、八幡平なかよしセンターと連携を図りながら、水難対応の避難訓練並びに保護者引き渡し訓練を実施する予定である。(8/30)いずれの訓練も、昨年度の反省を踏まえながら、より安全意識を高められるように工夫して実施してきた。 ・校舎・校地内の安全点検は、月一度の頻度で職員による安全点検を実施しているが、日々の安全点検を複数の目で実施することにより、問題箇所の早期発見に努めている。
	【年度末評価】 ・月に一度の安全点検と日々の校内巡視により、児童の使用箇所や校内外の様々な箇所について安全点検等を実施し、児童が安全に過ごすことができる環境作りに努めることができた。 ・児童は、大きなけがや事故もなく安全に学校生活を送ることができた。長期休業前には、子どもの心に響く安全指導を行い、安全への意識を高めることができた。 ・児童の実態や地域の地理的特徴に応じて改善を図りながら、計画的に避難訓練を実施することができた。来年度も今年度の反省を生かし、様々な場面での避難訓練を実施していきたい。

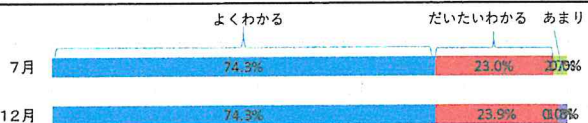
評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①安全教育の推進と危機対応能力の向上	・交通安全指導・防災教育・集団登下校・地区子ども会の実施 ・避難訓練の計画的な実施（事前・事後指導の充実） ・関係機関との連携
②校舎内外の安全確保と施設・設備の適切な整備	・日常の点検と整備、「学校安全日」の実施 ・危機管理マニュアルの活用 ・「CNAプライムメッセージ」（安心・安全メール）の活用

<資料>

○学校生活の振り返り(児童アンケート7月→12月)

・あなたは、地震・火事のときや不審者に会ったときにどうすればいいかわかりますか。

：達成率91%→90% 肯定率97%→98%



○保護者アンケート（7月→12月）

・学校は安全指導や緊急時の対応を指導している。

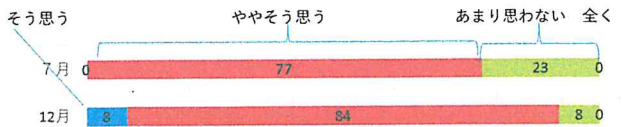
：達成率83%→84% 肯定率94%→95%



○学校経営評価(職員アンケート7月→12月)

・子どもたちは安全に過ごす意識をもち、その方法を身に付けている。

：達成率59%→67% 肯定率77%→92%



洪水を想定した避難訓練（保護者への引き渡し訓練も含む）：なかよしセンター、児童クラブと連携して。

基本方向 8 「教職員のモチベーションと資質の向上」

児童生徒又は学校の状況		自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	学級担任の中で若手教員が占める割合が増え、実践的な研修を積み、授業改善を進めなければならない。	中間	3	中間	3	意欲的に十分努めている。職員の向上心が児童に伝わり、学校の雰囲気も良くなる。今後とも引き続きお願いしたい。
年度末	校内授業研究会や業授業を見合う会を行い、授業力の向上を図り、研究内容の共通実践に努めた。	年度末	4	年度末	4	意欲的に十分努めている。ICTを効果的に活用して、今後とも引き続きお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	【中間評価】 ・音楽科について指導主事を招いて研修を行った。全職員で研究の内容を共通理解し今年度の研究をスタートさせた。また、授業を見合う会を行い、研修を受けた内容について児童の姿を基に研修を深めた。今後は、授業実践を積んでいきたい。					
	【年度末評価】 ・校内授業研究会を重ねるごとに授業改善に取り組むべき内容が明確になり、見合う会などの授業実践・研修にいかされた。研究部報などで、授業改善に関わる資料を提示したことで研究内容を共有することができた。 ・校外における職員研修では、対面形式の研修、オンライン研修に進んで参加する他、鹿角地区教科研究会での授業公開、「研究主任おすすめの授業」での授業公開など、充実した研修をすることができた。					

評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容
①指導力を高め、学校課題に沿った校内外での研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「秋田県教職キャリア指標」に基づく研修の推進 ・校外研修の成果の全体共有
②研究主題の具現化に向けた授業力向上のための研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究会・全体研修会の実施 ・研究部報の発行

<資料>

○校内研修・校内研究会の振り返り(職員)

回答は左から「そう思う ややそう思う あまり思わない 全く思わない」

1 研修が計画的に進められたか。



2 研修は個々の資質向上にいかされたか。



3 公開研究会や講演会等の紹介・参加及び伝達は適切であったか。



4 校内研究会までの取り組み方・当日の内容は適切であったか。



左より
授業を見合う会
模擬授業
授業研究会

○学校経営評価(職員アンケート7月→12月)

回答は左から「そう思う ややそう思う あまり思わない 全く思わない」

・学習指導や生徒指導等に関わる本校の課題に即した研修や諸会議が充実している。

：達成率72%→83% 肯定率100%→100%

・授業改善に向けた効果的な取り組みが行われている。




：達成率67%→86% 肯定率100%→100%

・校内外の各種研修に意欲的に参加し、授業改善に取り組んでいる。

：達成率73%→83% 肯定率82%→100%



基本方向9「地域とともに特色ある学校づくりの推進」

児童生徒又は学校の状況	自己評価		外部評価		外部評価者のコメント
年度初め	中間	3	中間	4	児童の評価の低さの理由を検討したい。連携事業は難しいと思うが、可能な限り行ってほしい。情報発信はとても良く行われている。
年度末	年度末	3	年度末	5	情報発信が充実しており、学校での子どもたちの様子がよく伝わっていた。また、地域と連携した事業も充実している。地域ボランティア等も含め、さらに連携の機会を広げて、子どもたちの実感につなげたい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【中間評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバンド部の演奏会や、保育参観、支援員体験など予定通りに行うことが出来た。情報交換の場では、指導につながる情報を得たり、成長の様子を伝えたりすることができた。 ・充実した教育活動の実現に向け、地域の教育力を効果的に活用している。今後も十分な理解を図った上で、有効に活用していきたい。 ・保護者・地域のニーズや社会状況を鑑みながら、可能な限り効果的な情報発信ができるように努めてきた。 <p>【年度末評価】</p> <p>学校報（毎月）、学年だより（隔週）、ブログ（ほぼ毎日）、HP（適宜）などの様々な方法で、保護者や地域に情報発信した。学校ブログは、学校行事の他日々の学校の様子を画像を交えながら情報発信ができた。また、地域学校協働活動が円滑に実施できるように、地域コーディネーターとの連携をこまめに図ることができた。学校運営協議会、八幡平地区PTA連絡協議会、子ども連絡会議等を通して、情報交換・連携を図ってきた。今後も地域の声に耳を傾けながら進めていきたい。また、連携事業の意義や良さを職員・児童と共有して、ともに成長を実感する活動となるよう改善していきたい。</p>				
評価指標（学校の実践課題）	具体的な取組内容				
①学校運営協議会による学校運営と家庭・地域への積極的な情報発信 ②地域の教育力の活用と幼保・中との連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の開催 ・令和6年度「はちまんたい教育の日」の準備 ・「はちまんたい運動」の推進 ・学校だより・学年だよりの発行、HP・ブログの利用 ・P6会議と3P会議による小中連携教育の推進 ・地域人材や地域素材の積極的な活用、地域行事への参加の奨励、地域学校協働本部事業の活用 				
<資料>					
◇情報発信					
左からそう思う ややそう思う あまり思わない 全く思わない					
○保護者アンケート（7月→12月）					
・学校は子どもたちの様子を家庭に伝えている。					
：達成率88%→88% 肯定率93%→96%					
○学校経営評価（職員アンケート7月→12月）					
・地域の声を生かした学校運営が進められ、子どもたちや保護者に学校の様子が伝わっている。					
：達成率81%→81% 肯定率92%→96%					
◇連携					
○学校経営評価（職員アンケート7月→12月）					
・子どもたちは幼保・中との交流事業、地域と連携した学習に意欲的に参加し、生き生きと活動している。					
：達成率67%→69% 肯定率92%→92%					
○学校生活の振り返り（児童アンケート7月→12月）					
・あなたは地域に出かける学習や保育園や中学校との交流学习に進んで参加していますか。					
：達成率63%→71% 肯定率66%→74%					
					
PTA連携（歌壇作業・清掃ボランティア）		中学校との合唱交流		民話の会による語り	